

2016年9月号

J-SHINE 通信



安藤正子さん

今回は横浜市の英語サポーターとして、児童たち、担任の先生方、そしてAET(ALT)の間に位置し、活動全体をサポートするように心がけながら、2校の小学校の実情に合わせて、長年活動されている安藤正子さんの実践報告です。

英会話講師、電機・通信メーカーでの翻訳業務、海外旅行添乗員、語学スクールスタッフなど様々な職種を経験し、平成20年から横浜市のYICA *1 英語活動サポーター(10月から9年目)として活動中。現在は横浜市立小学校の2校担当。NPO教育支援協会「放課後イングリッシュ」英語指導者としても活動中。

■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

子供が小学2年生になり、そろそろ得意の英語を使って何か始めたいと思っていた時、「平成20年度小学校英語活動サポーター募集」という配布物を地区センターのロビーで見つけました。事業主体が横浜市教育委員会企画運営が横浜市国際交流協会(YOKE)のものでした。書類選考後、面談とレベルチェックを通り、YICA英語活動サポーターに登録させて頂くことができました。その時はまだJ-SHINE資格を持っていませんでした。その後すぐ、「横浜市教育委員会発行の登録者リストを見ました。」と居住地と同区内の小中学校校長からご連絡を頂き、面談後、活動開始となりました。J-SHINEの資格は、サポーターを始めてしばらくしてから、(株)アルクの通信講座で取得しました。その小学校では継続して活動させて頂いているので、資格取得4年後の更新時には上級指導者資格に必要な時間数を満たしており、更新手続きと同時に上級指導者資格を取得することができました。

■現在の活動状況

横浜市立小学校2校で活動しています。A校は週1日程度、B校は月1~2日程度のペースです。同市・同区内の小中学校であっても、JTEの関わり方が全く違います。

●A校：AET(ALT)のサポート役として授業に入ります。5~6年生が中心です。2名のサポーターが在籍しているので、毎年新年度の最初の打合せで、5年生または6年生の担当学年を決めます。1~4年生のサポートにも入りますが、担当学年は決めていません。授業日の朝、AET(ALT)と活動内容の確認をします。ゲームのやり方を確認したり、どの場面でサポートが必要かを話し合います。

授業はAET(ALT)主導で進めていくので、ゲームのデモンストレーション、CDのセット、活動中の児童支援を行います。

●B校：担任の先生とのT-Tですが、T1として活動案を作成し授業を行います。担任の先生はT2として主に児童支援に回り、ゲームや会話のデモンストレーションに入って頂いています。こちらの小学校にも2名のサポーターがおり、以前は高学年も担当していましたが、今年度からは高学年は教科化に向け、AET(ALT)が担当し、1~4年生をJTEが担当することになりました。私は3~4年生を担当しています。

どちらの小学校も、担任の先生方とお話する時間はほとんどありません。授業で教室に入ってから簡単に補足説明を行なうこともあります。

AET(ALT)は数年ごとに異動があります。休み時間には授業以外の話題など挙げ、相手を知るようにしています。英語力ブラッシュアップにもなります。サポートに入る時に気を付けていることは、AET(ALT)と打ち合わせしたところ以外は状況を見て判断し行なっていますが、児童たちが自分たちで考えることも必要だと思い、サポートのし過ぎにならないように気を付けます。児童たち、担任の先生方、そしてAET(ALT)の間に位置し、活動全体をサポートするように心がけています。

JTEとしてのやりがいを感じるのは、毎回の授業で児童たちが楽しそうに活動に参加している様子を見たり、「もう1回!」とアンコールがかかった時などです。年度の最後の授業で1年間の感想を児童たちに聞くのですが、「知らなかった言葉を覚えられた」「英語が好きになった」「先生のお蔭で発音が良くなった」など言ってもらえて、自信にもなり、また頑張ろう!と励みにもなります。

■ 今後の展望・課題・目標

今後の日本の英語活動は、2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」の中、高学年では教科化（週3コマ程度）、中学年では活動型（週1～2コマ）へと変わっていきます。（J-SHINE フォローアップ研修 上智大学吉田研作先生資料より）

英語活動はますます活発になっていくことでしょう。JTEの活躍の場がもっと広がることを期待しています。

私は活動案作りに悩んだり、児童たちの反応が予想外に悪く授業がうまくいかず落ち込んだり、ということは何年経っても繰り返し経験します。そんな時に相談できる人、仲間、場所があると助かります。私の場合は幸い身近に相談できるJ-SHINEトレーナーの方や、小学校英語以外の英語指導者仲間がいて、ミーティングでの情報交換や勉強会、J-SHINE フォローアップ研修などに参加して少しずつ解決し乗り越えています。ネットワーク作り、横との繋がりはとても大事だと思います。指導法やアクティビティ、歌、絵本、クラフトのアイデアをシェアでき、自分の引き出しも増えていきます。より良い英語活動のためのその引き出しをもっと増やせるように、今後も、勉強、スキルアップをしていきたいと思っています。

* 1 YICA

Yokohama International Communication Activities
（横浜国際コミュニケーション活動）



* J-SHINE 通信 Web ページ

この2016年9月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE 通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>